

第13回女川原子力発電所2号機の安全性に関する検討会---傍聴報告

——地震学者がいないので、話が、かみ合わない——

2017年11月1日に、「第13回女川原子力発電所2号機の安全性に関する検討会」が開催されました。前回は、6月8日でしたから久々のというか、宮城県の手抜きの見直し検討会です。傍聴者7名と報道関係者3~4社、カメラ1台（みやぎテレビ）でした。みやぎテレビは、最後に座長にインタビューしていました。議題は、「新規制基準適合性審査申請」の「基準地震動」と、「基準津波」についてでした。

印象に残った点だけ報告します。（資料は、そのうち下記の宮城県原子力安全対策課HPにアップされます。）

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/gentai/kentoukai.html>

1. 資料2（基準地震動関連） 71~72 ページについて

・基準地震動策定について、応答スペクトルに S_s-D1 （プレート間地震の応答スペクトル手法による基準地震動）の継続時間を考慮するものと、しないものがあるので、つながるようなストーリーが必要。（源栄さん）

2. 資料2（同上） 27~30、71、72 ページについて

・「3.11の地震シミュレーションの各領域の寄与（30ページ）」について、地震は、どこがスタートでどこに伝搬しているのか。他から割れて、他へ伝わることは、どう考慮しているか。観測結果をもとに基準地震動を決めるのは問題でないか。（回答が、うまくできていない）。

・「応答スペクトル手法による基準地震動（71ページ）」の長周期の所が、合わないのは、再現できてないという事でないか。裕度をもってフラットにしたとのことだが、その理由を、宮城県から、国へ聞いて欲しい。72ページで、M8.3にした根拠は？（岩崎さん）・・・（東北電力の回答は、しどろもどろである。県は国へ確認し、この検討会へ報告するとの事。）

・なんか今回は、特に話がかみ合わない。最大の原因は、地震学者（地震工学ではない）がいないし、ある程度知見のある津波の専門家が遅刻していること。岩崎さんも津波の議論の時は、いなくなっている。東北電力も、説明がうまく出来ず、力量不足である。こんな、安全性検討会では、やはりだめですね。

(2017. 11. 8. 兵藤 則雄)